

主な記事	
2面	司教館の窓から、典礼奉仕のために高松教区の兄弟姉妹たち
3面	会計報告
4面	教勢報告
5面	神学生だより、ひと、委員会報告
6面	医療のともしび、書籍紹介 教区・司教スケジュール

カトリック 高松教区報

2009年7月5日(第130号)
 発行所 カトリック高松司教区 広報委員会
 〒760-0074 高松市桜町1-8-9
 TEL 087-831-6659 FAX 087-833-1484
 Email
 教区:catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
 広報:tk-koho@mxi.netwave.or.jp
 生涯養成:yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
 WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/



赦しの秘蹟 (恵み) に想う

江ノ口教会
諏訪栄治郎



えられた初聖体の「告解の仕方」に、どこかおかしさを感じているのは私だけでしょうか。今、赦しの秘蹟を見直す必要を強く感じています。例えば、「私の罪・地獄へ落ちたらどうしよう・恥ずかしさとも告解する・罪の赦しを頂く・ほっと・告白室から出る」残念ですが、そこには精神安定の要素はあってもイエス様への感謝と愛は見えないのです。ヨハネの手紙、パウロの手紙ばかりです。すなわち、私の「告白」によって罪が赦されるのではなく、また、「罪の償い」によって罪が赦されるのではないのです。ヨハネの手紙、パウロの手紙ばかりです。すなわち、私の「告白」によって罪が赦されるのではなく、また、「罪の償い」によって罪が赦されるのではないのです。ヨハネの手紙、パウロの手紙ばかりです。すなわち、私の「告白」によって罪が赦されるのではなく、また、「罪の償い」によって罪が赦されるのではないのです。

キリストの愛が罪の償いとなった

「司祭に叙階されて三十年余、未だ浸透していないもの一つに「赦しの秘蹟」があると感じています。幼い時に教

「外向き」「生かし合う」教会へ
若者たちも待ち望んでいます

「外向き」「生かし合う」教会へ

若者たちも待ち望んでいます

「外向き」「生かし合う」教会へ
若者たちも待ち望んでいます

若者たちも待ち望んでいます

神さまとの協力宣教司牧

ブラザー 八木 信彦



「外向き」に比重を置くために助けられるものだと思います。自分だけの領域から、隣の教会、まわりの地域、日本の社会、遠い国々へと視野が広がっていきつづけていくべきです。ひいては、キリストを知らない人にキリストを伝えていくという宣教にもつながっていくものです。ですから協力宣教司牧態勢そのものが最終目的ではなく、福音宣教を目指すための足がかりになると私は理解しています。そのために司祭、修道者、信徒が、自分の持ち分を与え合い生かし合う良い

機会です。

新しいものに移行していくためには、必ず先に前のものを手放していかなければなりません。未知の世界に入っていくには、エネルギーを使うし恐れも伴います。できたら前のものを手放したくないし、そうすることはとてもつらいことです。まして慣れ親しんだものや人や仕事、思い出や環境をそこへ置いていくわけですから、そこに留まらずに出発しなければならぬ「とき」もあるように思います。この変化の「とき」を、自分を脅かすものや問題としてか、または可能性やチャレンジとしてか、どのように捉えるかによって、どのように関わることが決まってくる。

「嘆き節」やめ 何度でも分かち合いを

私の愚考

郡中教会 今泉 芳純



今年四月旬節司教書が三月に発表されて四ヶ月になる。この教書について分ち合い

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

「司祭年」始まる
「司祭年」始まる

はばたき

昨年度から大学で「政策ディベーター」という授業を担当している。新たにできたグローバルスタディーズ特別コース所属の二年生を対象にした授業で、「ゲームとしてのディベーターを楽しみながら、情報分析能力や論理的思考能力、また人間関係構築能力を向上させる」ことを目的としている。学生には、自らディベーターをするだけでなく、他チーム間の試合につき、一人一人が、理由を挙げて勝敗の判定を示すことを求めている。

今年度の受講生数は十七名と、多人数講義が多くなりがちの社会科学系の授業としては、かなり「ぜいたく」な授業の部類に入る。昨年度この授業を受けた一名の三年生が、常時、アシスタントとして来てくれており、よき見習いとして活躍している。受講生の士気も上々で、授業時間外にグループで集まるなど、積極的な姿勢が十分に看取される。

前半部の論議は、「ソマリア沖の海賊対策のため、海上警備行動として自衛艦を派遣することの是非」というものだ。肯定側の立論の道筋は、ほぼ一つに限られるのに対し、否定側には、いくつかの立論の道筋がある。肯定側の難しさは、否定側の種々の主張パターンへの対応を準備しておくこと、否定側の難しさは、代替案を示す際に、その現実性を立証することや、自らの基本的立場との論理的整合性を確保することであろうか。

前半部の授業は、まずまずうまく行った。後半部では、この成果を踏まえ、論議の設定やルールの取り決め等につき、学生主体で行う予定である。

参加者全員が主体的意識をもち、自分のできるかぎりを提供し、他者から与えられるものを最大限に受け取る・・・このようなことができたとき、その場がどこであれ「聖霊の下での一致」という恵みを感じる。

高松教区の兄弟姉妹たち ④

聖母被昇天修道会 (OR)

すべてはイエス・キリストから
すべてはイエス・キリストのため
すべてはイエス・キリストのもの



マリア幼稚園 聖母行列

本会は、1839年、フランスのパリで聖マリ・ウージェニーによって創立されました。

当時のフランス社会では信仰心が薄れ、物質主義やエゴイズムがはびこっていました。聖マリ・ウージェニーは、そのような社会に根本的な考え方と価値観を与え、イエス・キリストが示された神の国の到来のために働くとして修道会を創立したのです。

現在、本会は4大陸の35か国で、人々と連帯しながら、教育を通して、また様々な使徒的



活動を通して、社会をよりよく変えていくために働いています。日々の生活においては、わたしたちは共同生活、個人の祈りと共同の祈り、聖体礼拝に重きを置いています。

日本では、1952年に創立され、箕面市に本部修道院と聖母被昇天学院(幼・小・中・高)があります。

大阪市の西成修道院では、貧しい人々、苦しんでいる人びとと連帯するために働いています。東京修道院ではフィリピンの人々の司牧と小教区での奉仕に携わっています。高松では、1966年に修道院が創立され、翌年マリア幼稚園が開設され、現在に至っています。



聖マリ・ウージェニー

司教館の窓から 司教のぼやき

誰かがこの欄は「司教のぼやき」の方が似合うと言った。それも一理あると私も思った。漱石ではないが、人生ままならぬ事が多いというのは確かである。若くない年でコンピュ

ターなどをしてしていると、訳の分からないうちにたびたびキーが動かなくなることもある。焦れば焦るほど、にっちもさっちもいなくなる。何とかしようという想いにとらわれると、機械は梃子でも動かない。司教の仕事も、どうしてもこれと思いつめても、どうにもならないことが殆どである。その時他人のせいにしてほやけば、あまり良い結果は生み出さない。

かわいはいぼやきもあり、人を和ませることもある。楽天の野村監督などが良い例で、その実、言いたいことをきちんと言っているのである。ただこの場合、ぼやきを聞く方が、それを聞き分ける力が必要なのである。そのほか建設的ぼやきもある。口に出して「あかん」と言っているうちに、また次の正念場でもうのように対処するかのアイディアが生まれるのである。「うまくいかん」と繰り返しながら、次の秘策が生まれると言っ

た種類のものがある。多くの可能性を考える事が出来るからである。何とも頂けないのは、年がら年中同じことをぶつぶつ言っただけ、そこから一歩も抜けきれないぼやきである。人が出した提案には必ず何か述べる一言居士であるか、何も言わず、知らぬ存ぜぬを決め込むか。どちらも頂けないぼやきである。

溝部 脩

I. 典礼とは? → ③ 「キリストの教会のわざに与る」

『カトリック教会のカテキズム』1071, 1072より

「キリストの教会のわざに与る」とは、どのようなことでしょうか? 次の二つの文章をお読み下さい。

「…キリストは、常に自分の教会とともに、特に典礼行為に現存している。キリストはミサの犠牲のうちに現存している。…だれかが洗礼を授けるとき、キリスト自身が洗礼を授けるのである。…聖書が教会で読まれるとき、キリスト自身が語るのである。…キリストは、教会が懇願し、賛美を歌うときにも現存している」(典礼憲章7)。それゆえキリストの教会のわざは、「公的礼拝」と呼ばれています。私たちが「日本人のミサ」とか、「〇〇神父による洗礼」、「××運動グループ独自の典礼」等の言葉を使う時には注意して損はありません。「…日本の教会は四十数年、公会議との格闘を続けています。その闘いは「開き派」と「閉じし派」の闘いであり、(中略) また、「教条主義」と「福音主義」のつな引きであり、焦点を小さく絞って個人のレベルで言えば譲れないものとして「キリスト」を掲げるのか「オレ」(自分)を掲げるのか、つまり「キリスト信者」なのか「オレオレ信者」なのかという、問いかけてまで迫られるような格闘でした。…」(「言の波」長崎大司教区本部事務局発行 2009年2月1日p. 10 直接宣教を 橋本勲師)。示唆に富む切り口です。ですから拝借致します。この側面から前回の3つの出来事を振り返ってみましょう。「譲れないもの」は何か?

☆ 作業服のおじさんを聖堂から追い出そうとするケース。どうしたらキリストの教会に近づけるでしょうか。まず、私は「礼拝至上主義」を脱ぎ、「キリスト」を着ましょう。おじさんにも「作業着礼賛主義」を脱いで頂き、「キリスト」を着て頂きましょう。ヘルメットを脱いでいるので既に「古い自分を脱ぎ捨てて」おられるかも知れませんが。週日の午後6時の聖堂で、たまたま出会ったこんな二人が祈っているとしたら、主イエスも聖ヨゼフも喜んで下さるのではないのでしょうか? 「晩鐘」の絵の世界に礼拝はいりません。共に祈って下さる主イエスキリストの祭司職を、苦しみ悩む多くの兄弟姉妹と共に生きる事ができたら! 私たちが招く人になる時、キリストの教会のわざに与り、キリストの救いの見える



ルルド祭ではしゃぐ子供たち

るしになるでしょう。その時にはもう、「オレオレ信者」からの脱却は済んでいます。



仕える典礼 ④



「典礼奉仕」のために

高松教区前典礼委員長 土屋和彦

☆ 外国語での朗読を止めさせようとするケース。日本人に日本語典礼を行う権利がある訳ではなく、日本の教会に日本固有の典礼を行う権利はありません。また教会は、民主主義の原則にも基づいてはいけません。私たちは「ローマ・カトリック教会」に属しており、典礼に関する規範は第一に、キリストの教会の権威にのみ依存しています。この権威は「使徒座」に、また同時に「司教」にあると定められています(典礼憲章22§1)。この権威は第二に、司教団にあると書かれています(§2)。

さて日本の司教団は、日本にいる多国籍のカトリック信者の宣教司牧を優先課題の一つに数えています。また、溝部司教もこの司教団の方針にのっとり、司教との交わりと一致の中で取り組みを我々に呼びかけておられます。(個別グループの典礼に関する活動に対し、明確な方針を示しておられる2006年教書「聖体の年にちなんで(下) 主の日の意義について」p. 6, 7を特に参照する必要があります。)

ですから、「司教との交わりの中で、司教の方針と一致している司祭」の決断に関して、基本的人権やその他の理由によって異議を差し挟むこのケースの場合は、よくよく自らの主張を吟味すべきでしょう。司祭はキリストへの従順、同時にキリストの教会への従順、即ち司教(ローマの司教含む)と司教団への従順の中で、神の民への奉仕を生きようとしています。司教、司祭の司牧的配慮に眼を向けて下さい。是非、洗足式の時に、仕える為に来られたキリストの王職を思い起こしましょう。

☆ オルガン奏者が音痴の司祭と戦うケース。結果は通常、明らかにひどいものになります。

1) 音痴の司祭の音に従う人の歌声、2) オルガン奏者の「正しい」音に従う人の歌声、3) どちらに従えば良いか判らず、迷い歌う人の声 これらは不協和音になりやすく、まずハモることがありません。

欧米やアジアの大聖堂のオルガン奏者は社会的地位が認知されています。グレゴリオ聖歌を含む、教会の典礼音楽の豊かさ故のことでしょう。実際、音痴の司祭が音をはずしても、直ちに転調して合わせてしまう高度な技術を持つオルガン奏者の方にしばしば出会います。またベテランの司祭であれば、ミサの前にオルガン奏者に一言「半音上げて下さい」と指示する名手もおられます。オルガン奏者の奉仕は、実に「…祈りをより美しく表現し、一致協調を促進し、また聖なる儀式をより荘厳なものとして豊かなものとする…」(典礼憲章6章112) 役割の中にあります。音痴の司祭(私です)の歌ミサ練習にもご協力下さい。

次回から稲毛神父が担当します。お楽しみに!

科目	教区本部合計
経常収入の部	
(納付金収入)	23,260,000
教区納付金(A)	16,130,000
教区納付金(B)	7,130,000
教区納付金(C)	
(分担金収入)	1,107,725
小教区分担金収入	
その他分担金収入	1,107,725
(特定献金収入)	4,335,368
児童福祉の日献金	1,756,313
聖地献金	13,000
愛の献金	521,603
広報の日献金	392,743
聖ペトロ使徒座献金	432,388
世界難民移住移動者献	376,714
世界宣教の日献金	428,663
宣教地司祭育成日献金	413,944
(一粒会献金収入)	2,592,667
一粒会献金	2,592,667
(特別献金収入)	55,294,434
祭式献金	9,663,425
特別献金	27,177,223
一般特別献金	11,177,994
一般献金	7,275,792
(墓地・納骨堂等収入)	6,931,000
非課税永代使用料収入	80,000
課税永代使用料収入	2,700,000
管理料収入	4,151,000
その他納骨堂等収入	
(雑収入)	3,277,850
課税雑収入	2,589,350
非課税雑収入	688,500
(事業収入)	2,027,600
受取利息配当金	1,562,100
有価証券売却益	
施設利用料収入	465,500
【経常収入計(A)】	98,826,644

財務収入の部	
(固定資産収入)	3,560,000
長期貸付金回収収入	3,560,000
(その他の財務収入)	81,520,326
未収入金収入	604,510
立替金回収収入	8,216,964
仮払金回収収入	50,195,327
預り金収入	9,252,573
仮受金収入	13,250,952
(内部取引勘定収入)	54,347,961
基金勘定収入	3,620,669
教区事務勘定収入	26,606,249
一粒会勘定収入	1,961,993
墓地納骨堂勘定収入	40,318
司祭会計勘定収入	22,118,732
【財務収入計(C)】	139,428,287
【収入計(E=A+C)】	238,254,931
(前期繰越金(G))	308,058,960
【収入合計(I=E+G)】	546,313,891

経常支出の部	
(祭儀費)	191,760
祭儀費	191,760
(諸委員会活動費)	6,240,978
生涯養成委員会	1,036,945
広報委員会	1,840,064
典礼委員会	290,956
青少年宣教司牧委員会	2,039,890
人権を考える委員会	155,220
その他委員会	877,903
(宣教活動費)	2,918,993
中央協議会分担金	980,000
広報活動費	34,650
教区行事費	
研修費	1,707,838
調査研究費	
資料図書費	32,505
諸会費	164,000
(助成金支出)	364,950
小教区助成金	364,950
(援助事業費)	8,624,879
高松教区援助事業費	2,603,944
教皇庁援助事業献金	4,193,664
中央協議会援助事業	1,827,271
(人件費教区事務局等)	37,489,857
本俸・諸手当	33,879,400
通勤手当	
法定福利費	3,610,457
退職共済掛金	
退職金	
(福利厚生費)	156,760
厚生費	
福利費	156,760
(維持管理費)	4,322,540
保守管理費	1,273,934
水道光熱費	1,318,695
什器備品費	1,005,701
営繕費	537,810
園芸費	
損害保険料	186,400
(事務管理費)	11,596,745
事務印刷費	976,225
消耗品費	118,583
電話FAX料	212,977
通信費	561,999
支払手数料	166,802
旅費交通費	3,381,607
公租公課	691,900
資料図書費	786,510
会議費	766,115
接待交際費	423,350
報酬手数料	1,012,603
諸会費	10,500
リース料	197,400
自動車諸費	2,075,832
修繕費	194,342
雑費	
賃借料	20,000
(養成費)	4,092,563
祭儀費	
教育費	1,802,100
海外研修費	
運営分担金	1,883,700
行事費	200,641
召命促進広報費	
会議費	
旅費交通費	206,122
【経常支出計(B)】	76,000,025

2008年度 教区会計決算報告

2008年度も教区の
宣教活動にご協力頂き、
会計決算が無事に

終えたことを感謝し
報告いたします。

現状として、維持費の減少と、
教区内で働く人が増えた結果、
教区運営が難しく
なっています。

来年の予算では

3人の神学生育成費が
増加しますので、

特に一粒会献金をお願いし、

今年度も司祭・

修道者・信徒の

奉仕と寄付の

お願い申し上げます。

教区会計

サンティアゴ・サイズ神父

財務支出の部	
(固定資産支出)	19,110,931
基本建物購入支出	5,102,054
基本土地購入支出	6,977,942
建物付属設備購入支出	2,697,245
構築物購入支出	563,000
祭儀備品購入支出	
器具備品購入支出	1,420,690
車輛購入支出	350,000
長期貸付金支払支出	2,000,000
(その他の財務支出)	95,402,997
立替金支出	8,465,264
仮払金支出	53,062,307
前払金支出	
短期借入金返済支出	
未払金支出	4,253,600
仮受金返還支出	20,545,907
預り金支出	9,075,919
短期貸付金支払支出	
(内部取引勘定支出)	54,347,961
基金勘定支出	3,620,669
教区事務勘定支出	26,540,524
一粒会勘定支出	2,030,718
墓地納骨堂勘定支出	40,318
司祭会計勘定支出	22,115,732
旧神学院勘定支出	
(資金調整勘定)	-3,710,000
前期末前払金(-)	
期末未払金(-)	-3,710,000
【財務支出計(D)】	165,151,889
【支出計(F=B+D)】	241,151,914
【次期繰越金(H)】	305,161,977
【支出合計J=F+H】	546,313,891

2008年度カトリック高松司教区現勢調査報告

2008年12月31日現在

1. 信徒数概況

	香川県	愛媛県	高知県	徳島県	合計
面積	1,862.28 Km ²	5,677.73 Km ²	7,105.13 Km ²	4,146.55 Km ²	18,791.69 Km ²
人口	1,003,004 人	1,439,143 人	781,862 人	793,629 人	4,017,638 人
前年度信徒数	1,544 人	1,866 人	784 人	718 人	4,912 人
信徒	1,570 人	1,821 人	788 人	708 人	4,887 人
司教・司祭	14 人	17 人	6 人	4 人	41 人
助祭	1 人	1 人	人	人	2 人
修道士	人	人	1 人	人	1 人
修道女	44 人	31 人	9 人	人	84 人
神学生	1 人	人	人	人	1 人
総数	1,630 人	1,870 人	804 人	712 人	5,016 人
前年度総数	1,636 人	1,912 人	800 人	722 人	5,070 人

2. 人員構成

司教	2 人
教区司祭	13 人
宣道・修道司祭	13 人
トミニコ会	9 人
オブレート会	4 人
スペイン外国宣教会	人
宣道・修道司祭小計	26 人
助祭	2 人
神学生	1 人
修道士	1 人
修道女小計	84 人
聖トミニコ宣道修道女会	55 人
松山修道院	15 人
北条修道院	12 人
新居浜修道院	4 人
坂出修道院	20 人
小豆島修道院	4 人
聖心の布教姉妹会	9 人
聖母被昇天修道会	6 人
神の母マリア修道院	13 人
コングレガシオン・ド・ノートルダム	1 人
修道女小計	84 人
教区外司祭	11 人

3. 諸施設

(1) 教会	26 所
小教区	3 所
巡回教会	1 所
布教所	人
(2) 修道院	10 所
男子修道院	1 所
女子修道院	9 所
(3) 教育施設	人
聖カタリナ女子大学	787 人
聖カタリナ女子短期大学	315 人
愛光学園高等学校	700 人
聖カタリナ女子高等学校	1,192 人
愛光学園中学校	580 人
幼稚園 (23 園)	2,734 人
(4) 社会福祉施設	人
聖マルチン病院	196 床
聖マルチンの園	50 人
白百合荘特別養護老人ホーム	50 人
マリアの園	50 人
聖園天使園	101 人
聖園ベビーホーム	30 人
保育施設	25,770 人

4. 教区内組織

- ・教区顧問会
- ・司祭評議会
- ・教区宣道司牧評議会
- ・地区宣道司牧評議会
- ・小教区宣道司牧評議会
- ・経済問題評議会
- ・責任役員会
- ・修道女連盟会
- ・典礼委員会
- ・生涯養成委員会
- ・青少年委員会
- ・教会学校教師会
- ・カトリックボーイスカウト
- ・中・高生会
- ・広報委員会
- ・人権を考える委員会
- ・諸宗教対話委員会
- ・エキュメニズム委員会
- ・女性委員会
- ・カトリック女性司祭会
- ・レジオ・マリエ
- ・カトリック看護協会
- ・カトリック医師会
- ・クリスチャン・ライフ・コミニティー
- ・マリッジ・エンカウンター

5. 信徒数動向

教会名	信徒数				洗礼		転出入		死亡	堅信	初聖体	求道者	教会学校		ミサ参加			結婚			
	男性	女性	総数	不明	幼	成	入	出					信	未	主日	復活	降誕	①	②	③	④
桜町	329	539	868	56	13	13	20	1	7	25	4	15	45	8	300	350	400			2	10
番町	65	107	172		3	1		7	1	1	1	2	8	0	50	70	150				
小豆島	31	35	66	27	1	5			5			2			15	25	40				
三本松	17	19	36	2			2	3				8	3	0	20	30	50				
坂出	65	126	191		4	3	4	3	7	3	2	12			50	90	120				
丸亀	32	92	124	5	3				4			7	18	0	70	80	160		1		
観音寺	7	25	32		1		2		3			3			17	30	60				
善通寺	23	58	81					1				3			14	30	50				
香川県計	569	1,001	1,570	90	25	22	28	15	27	29	7	52	74	8	536	705	1,030	0	1	2	10
松山	341	647	988	43	11	23	9	17	10	26	10	6	32	0	300	450	500	2		2	2
道後	53	108	161	4		2	3	1	1	2		1	4	0	50	80	230				2
今治	78	90	168	5			1	1	2			2	3	0	50	200	300				
新居浜	98	140	238	1	2	2	1	4	5	1		3	16	1	73	105	150			1	1
西条	18	37	55	2	1		3	4	1			1	8	12	17	74	85				
郡中	19	43	62		1	2		1	2			3	3	15	35	50	100				
八幡浜	15	53	68	1	2	1		4	2						20	40	60				2
宇和島	19	47	66		3			4	3			3			35	100	100				
伊予三島	8	7	15												5	15	20				
愛媛県計	649	1,172	1,821	56	20	30	17	36	26	29	10	19	66	28	585	1,114	1,545	2	0	3	7
中島町	150	268	418	47		2	2	4	2	1	2	4	6	0	80	270	270			1	8
江の口	78	126	204	8			5	1	2			65	2	25	60	100	130				
安芸	10	28	38						1						7	15	24				
赤岡	11	22	33			1		2	2	1	1	1			17	30	30				
中村	11	84	95		1			3	1			1			15	90	90				
高知県計	260	528	788	55	1	3	7	10	8	2	3	71	8	25	179	505	544	0	0	1	8
徳島	134	252	386	12		3		4	2	3	6	2	35	11	77	257	300				1
鳴門	83	105	188	0	1		0	8	0	0	0	2			40	70	180				
阿南	35	56	91	0	1		0	0	1	0	0	3			15	30	40				
池田	8	35	43		3										8	15	20				
徳島県計	260	448	708	12	5	3	0	12	3	3	6	7	35	11	140	372	540	0	0	0	1
教区総計	1,738	3,149	4,887	213	51	58	52	73	64	63	26	149	183	72	1,440	2,696	3,659	2	1	6	26
前年度	1,743	3,169	4,912	165	43	47	67	71	71	24	49	155	188	59	1,396	2,560	3,736			12	95

【結婚】 ①=カトリック同士 ②=カトリックと他のキリスト教 ③=カトリックと他の宗教 ④=非カトリック同士

聖なる... ⑦ 神学生だより

日本カトリック神学院
神学科1年 松田 栄作
福岡へ移動して数ヶ月が経ち、福岡の生活にも慣れてきた頃合いです。東京にいたときは雰囲気随分違いますが、清らかな九州の神学生たちと合流したということもあって、この神学校という空間に染み付いている祈りの雰囲気が深く感じられます。「聖なる」という形容詞が当てはまる場所だと思っています。

さて、当神学校の神学生は哲学科1年の初年度養成の人々を除いて、毎週土日になると各地の教会へ司牧実習に出掛けます。私は新田原教会へ通うことになりました。大分県に近く、電車とバスで3時間以上かかる場所ですが、これが、こんな教会があったのかと驚かされてしまうような教会なのです。小さな町なのに信徒数は約1,800人、長崎県五島からの移住者が開拓し

た果樹園の広がる町で、ほとんどの人がカトリック信者という町です。主日には500~600人の会衆と子供侍者が15人位いたり、週日の朝ミサにも50人位の会衆と子供侍者がいたりして、軽いカルチャーショックを受けました。ここでは信仰と生活とが一体化しているのです。教会学校にも20~40名位(名簿上は83名)の参加があり毎週とても楽しいものになっています。私は信仰のパワーのようなものを感じ、週末にこの教会に行くのが楽しみでならないというような嬉しい状態です。病院やデイサービスなどを経営している聖母訪問会という修道女会が隣接していますが、このシスター方も高齢化しているのに活発です。3C(Chance, Challenge, Change)という目標を掲げて現代の困難な状況を乗り越えて行こうとしています。こんな風になればいいなという、教会作りの目標が出来たような気持ちで、何かその秘訣を学んで高松へ持ち帰ることができればという思いで頑張っています。



ドミニコ修道会 架け橋のように アウグスチノ・レオ 稲毛 利之

なので皆様よろしくお願ひ申し上げます。
また、叙階後すぐにフィリピンへ赴任して、二年間の勉強を終えて帰ってきたばかりなので、正直言ってまだ少し日本の生活に戸惑っています。皆様のご忍耐をお願ひ申し上げます。
私が洗礼を受けたのはちょうど二十

司教様、司祭の方々そして皆様この度、協力宣教師司牧司として高松教区に赴任いたしました稲毛神父です。
私はドミニコ会士で三年前の三月に高松教区にて溝部司教様より助祭叙階を受け、翌年、つまり二年前の三月に東京教区にて司祭叙階を受けました。まだ司祭としてはたった二歳の赤ん坊

歳の時で、それまでは神道の影響を受けていたと思います。カトリックとの初めての出会いは幼稚園の時で、宇都宮に生まれた私は松ヶ峯幼稚園に通ってました。
第二の出会いには香港の信者さんを通じて、そして第三の出会いにはカルメル会のシスター達の祈りのテープを偶然耳にしたところから始まりました。それから三年旅をしてイエズス会の聖イグナチオ教会で回宗し、さらに三

ミニコ会に入会しました。ちなみに神学校はフランシスコ会です。
様々な人々の境界線を巡り歩いたイエズス様に倣い、教区はもちろん、修道会、人種、国籍、宗教の狭間に架かる架け橋になれたら幸いです。
皆様、よろしくお願ひいたします。

高階やわがふるまこの遠きくら (平十八年)

(入居中のケアハウス三階自室から)
二度と帰れないかも知れない故郷を偲んでの作句

現在八十三歳の森川さんは、二十五歳の青春時代に肺結核で国立愛媛病院に入院。同病で、すでに入院中であつた高名な俳人である実兄から作句の手ほどきを受け、人一倍秀でた感受性と感覚で、忽ち頭角を現し、病室の窓からのみの作句でありながら、現在までに「糸瓜」で草木抄賞受賞、「若葉」で第四回神魚賞受賞をはじめ、入選、入賞を重ね、句会「若葉」「冬草」「糸瓜」で同人に推挙され、遂に俳人協会会員までなられました。

しかし、その間の彼女は、ごく短い自宅での生活を除いて、多くの病院を転々と移らねばなりません。そして二度と社会人として会社で働くことはできませんでした。

愛媛 松山教会 森川美枝子さん



母と住むことのかなひし春燈 (昭四十一年)
三寸終えし後も祈りて堂涼 (昭四十一年)

ひと

二十一年六ヶ月目の楽しい嬉しい退院の日の句ですが、その日々も長くは続きませんでした。

「私は、ただ永い療養生活を空白にしたくないために俳句を始めましたが、その俳句とカトリックの信仰が、計り知れない心の支えとなり、病を通して得た神と人との出会いを大切に、神のみ手にある自然を俳句文学として心を養われました。信仰と俳句が生きた甲斐で神を賛美しつつ、移り行く自然の感動を俳句に書き留めながら、生かされております。」と、述べておられます。

私はレジオ・マリエ会訪問活動として、森川さんとはもう十年以上のお付き合いですが、病状がどんなにひどい時にも、彼女からはいつも神さまに生かされ守られているという感謝の言葉以外聞いたことがありません。彼女の微笑を絶やさぬ表情と振る舞いを通じて、神さまの慈しみと優しさを感知させられます。

まだ生きてゆけそう小春日がつつく (平十九年)
文責||シエナのカタリナ藤原美智恵(松山教会)

委員会報告

生涯養成委員会

一 二〇〇九年度活動方針
「四旬節教書」を受けて、

教区の優先課題を推進する意味で信徒の養成を目指す。

二 「パウロ年」のプログラム
六月二十七日(土)の溝部

司教の講座で終了した。「宣教の大切さ」を掲げている高

松教区はパウロにあやかり九月からも溝部司教の講座を予定。他地区での開催を、地区

の責任者と日程調整中。

三 黙想会
塩江黙想の家で「宣教」と

「祈り」をテーマに黙想会を計画中。

四 行事
「賛美の歌」のグループによる「平和音楽会」を開催予定。

時||八月十五日(土)
午後一時
所||坂出カトリック教会

女性の視点から教会を考へる委員会

(通称・カトリック高松教区女性会)

四月十八日(土) 四国カトリック会館において担当者会を開催し本委員会規約草案を教区に提出し検討をお願いした。総会と研修会の日程は次の通り。

「女性の視点から教会を考へる委員会」研修会
*日時||二〇〇九年十一月七日(土) 十一時~十五時

*場所||四国カトリック会館(坂町)

*講師||佐々木博 神父様(仙台教区) 前オリエンズ宗教研究所所長

『福音は神の力』

鳴門教会 林 広

三月二十二日に和神幹男神父様によるパウロ三木・徳島教会での黙想会に与りました。

神父様は「あは「イエスは死んで、生きていくんだ」と、復活した主との驚きの遭遇を宣教することがパウロの源泉である」と。

また、イエス様の復活を受け入れない人々には、囚われの身に象徴させる最悪の状態であるのだが、パウロには、逆境こそがイエス様を注目させ、福音が広まると喜んだ。

その理由は、ユダヤ教の教えの頂点は「汝の神を愛せよ」に尽き、その真意は人に対する神

の「慈しみと愛」の心が、律法の裏に隠されたが故に、イエス様が死をもって表に引き出された。その神の慈しみを、死は永遠の命への単なる通過点である。復活したイエスはパウロに諭された。それで彼は、死は喜びに変わると悟り、逆境や、弱さの中にこそ、キリストが働かれるとの確信を得、「弱さを誇る」と、イエス様の復活(福音、キリストの現存の証し)を力強く各地に述べ伝え、根付かせた。それらの歴史は超時代的、超歴史であるので「福音は神の力」であると和神神父様は言われま

した。
昨今の日本は、構造的な富の虚構の破綻として「派遣切り」に象徴される、マモンが姿を現している。弱さのうちに神が働かれるのだから、今の日本にこそ、キリスト様が世に知られる絶好のチャンスである。と、福音を述べ伝える力と強さ、をい

ただきました。

聖マルチン病院
薬剤師・看護師 (募集) 随時募集しています。
聖マルチン病院で 専門職を 発揮しませんか
下記に ご連絡下さい。(総務課) 0877-46-5195

住環境福祉コーディネーターが家造り
福祉住環境リフォーム
高齢者・障害者に配慮したバリアフリーの住宅
福祉住環境リフォーム・新築・増改築工事・設計施工
有限会社リフォームオオタ
代表取締役 太田 修
〒763-0092 丸亀市川西町南449番地3 TEL (0877) 28-0881 FAX (0877) 28-0190
E-mail o-chandazo@theia.ocn.ne.jp URL http://www.reform-oota.co.jp

愛光中学・高等学校
輝く知性と曇りなき愛
愛 (Amor) と光 (Lumen) の使徒たらんこと!
〒791-8501 愛媛県松山市 衣山5丁目 1610-1
TEL089-922-8980
http://www.aiko.ed.jp

家庭祭壇 祈りと安らぎの空間
家族揃って祈れる場所がご家庭におありでしょうか?
8.5万円~各種取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。カタログを無料にて郵送致します
TEL 0972-63-4187
担当: ローザ平林美穂子
〒875-0041 大分県臼杵市豊屋町三組 **山本鳳凰堂**

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう。
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園 阿南聖母幼稚園

神の計画

丸亀教会 香川 法子

神様は神の子供として、この私を再び津和野へと呼び寄せたかったようです。教会に足を運ぶたびに、乙女峠巡礼のポスターが気になって仕方ありませんでした。若き日に遠藤周作の本に促されて津和野を旅したことがあり、でもその時は神を文字で迎える物見遊山の旅でした。三尺竿や踏み絵、山深い中にひっそりと建つマリア聖堂、興味本位の旅はその後、私の心の闇を掘り返し、気が付けばカトリック信者として、十字架の前に跪いていました。連休も迫り、ポスターは私の心を急ぎ立てます。一人でも巡礼に行こう、アブラハムも神を信じて、妻口を連れて未知の世界へ旅立ったではないか。民宿で一泊し、五月三日の朝十時前に津和野教会へ向かうと、各地から来る巡礼の人で一杯でした。たまたま会った津和野教会の神父様に「香川県からまいりました」と言うと、「それでは十八番の高松教区に入りなさい。」



と云われましたので行ってみると、松山教会の信者さんたちが幟を持って集まっていました。十時半の鐘の音を合図に、さあ、出発です。マリア様のよ

うな衣装を着ている乙女らが、聖堂のマリア像を輿に乗せ、それを担いで乙女峠のマリア聖堂へ向かって巡礼が始まります。皆、手に口ザリオを持ち、一斉に口ザリオを唱えながら市中を通り、険しい峠へと向かいます。家々から出てマリア様に手を合わせる人、分らないまま口ザリオを口ずさんでいる人、この巡礼は、この地にすっかり定着しているのだと思いました。長い行列は一時間余りかけて乙女峠に到着しました。仮設の大きなテントの聖堂に三十人ほどの赤いストラを身につけた神父様方が入堂されます。周りは信者さんや見物の人で溢れています。それはそれは、圧巻のミサの始まりです。この地で殉教した人たちが、このミサを司式して

いるようでした。十数か所で拝領されるご聖体。私は信仰の血に染まったこの地でご聖体を拝領できたことに、胸一杯になり涙ぐんでしまいました。神様はすべてをご存知で、あの日私をここに連れ出し、キリストに結んで再びこの地に来る事を計画なさっていたのです。洗礼を受けて十六年、殉教者の信仰の証は、何処へいっても私の心から離れ去る事はありません。三尺竿、凍りついた池、雪の中の放置、彼らが何故それらの拷問を耐え忍ぶことが出来たのか、今の私は少しですが分かれます。神様へのほとほと愛。その愛をもって私たちがこの難しい世を生きていかなければなりません。そのことを教えてくれた乙女峠巡礼でした。奇しくも今日五月三日は私の誕生日。神様からの何よりのプレゼントです。一人旅であったにも関わらず、岡本神父様はじめ松山教会の巡礼団の皆様、色々ご配慮頂いたことを心より感謝しています。神に感謝。

子供の集いで学んだこと

ボーイスカウト高松第九回ベンチャー隊 多田 裕貴



私は今まで復活祭やクリスマスにしかミサに参加していませんでした。その為信者やシスターと話したこともなく、お祈りなどもしたことがありませんでした。しかし今回の子供の集いに参加して、分かった事が多くあります。

まず、お祈りの言葉や歌がある程度覚える事が出来ました。またシスターや信者と話してみても、その人たちが普通の人と同じところか、とても面白い人達ばかりで、私も話に入って楽しく話すことが出来ました。ボーイスカウトでするようなキャンプとはまた違う感じで、とても面白かったです。今回学んだだけではまだ分からない事が多くあり、これからやっていく中で少しずつ学んでいきたいと思っています。またほかの信者の人たちとも、もっと積極的に話したいと思いました。

子ども&中高生の集いに参加して

徳島教会 小学四年 深堀 愛

「おしいい！」四月二十五日は、朝から雨でしたが、峰山公園では、曇りになってパーベキューができました。みんなの笑顔は最高で、私たちのそばにはいつもやさしい神様がいるんだなと思いました。夜には、四国カトリック会館へ行って、「神様と呼んでるよ！」というテーマでお話を聞きました。神父様やプラサーたちのお話を聞いてみると、本当に神様に呼ばれてここにいらんだなと思いました。

次の日は、グループに分かれて発表の準備をしました。私のグループは紙しばいと人形劇で、子どもがシスターやプラサーや神父様になるお話を発表しました。それから、教会のお手伝いで朗読したこともうれしかったです。帰る時、みんな神様がいてつながっているんだ、と思ったら勇気がわいてきました。

医療のともしび (15)

新型インフルエンザ

豚インフルエンザから発生し、H1N1型の新型インフルエンザが全世界に流行しました。5/30現在で、全世界で1万人を超える罹患数、数十人の死者が、日本で全世界4番目の300数十人の罹患数ですが、幸いにも死者はでていません。

日本においては、新規発生数が次第に少なくなってきました。これは気候的にも梅雨という雨量が多い時期（これはインフルエンザウイルスが増殖しにくい環境と従来から言われています）に入ってきているせいかもしれません。また今後さらに夏という暑い時期を迎えるため、この環境もウイルスの増殖には適さない環境です。よって日本においては当面は収束する方向に向かうと考えられます。

一方世界に目を向けるとどうでしょうか。現時点で、乾期の地域や冬期の地域があります。この乾いた寒い環境はウイルスの増殖に適しています。これらの地域での新規発生がこれから起きる場合またはすでに起きている場合は、収束に向かうかどうか疑問です。広がるかもしれません。厚労省は日本のみならず世界の発生状況の把握を今後も続けるはず

です。なぜこの観測が必要かといいますと、ウイルスは細胞に入り増殖するとき変異する可能性が常にあるのです。現在は弱毒性と判明していますが、変異後は、強毒性の獲得または抗インフルエンザ薬への耐性獲得の可能性があるので。この変化が日本以外で起きてしまったら？そしてこれが日本に上陸したとき

は、今回と違うウイルスとしてふるまい感染するかもしれません。

スペイン風邪が有名ですが、感染者6億人、死者約5000万人を記録しています。その当時の世界人口は18億人です。第一波は1918年3月に米国デトロイトやサウスカロライナ州付近などで最初の流行があり、これは軽症であったそうです。米軍のヨーロッパ進軍とともに大西洋を渡り、5月-6月にヨーロッパで流行し、第二波は1918年秋にほぼ世界中で同時に起こり（パンデミック）、病原性がさらに強まり重症な合併症を起こし死者が急増しました。第三波は1919年春から秋にかけて第二波と同じく世界的に流行しました。この第二波と第三波で患者数・重傷者・死者が増加したことは有名です。

よって、日本で収束しつつあるからと安心せずに、情報に耳をすませ、準備を怠らないことが肝要と考えます。今秋以降に第二波が来る可能性を考えておきましょう。

政府レベルでの準備として、早くこのウイルスへのワクチンを開発し、国民に接種することが急がれることでしょう。抗インフルエンザ薬（タミフルやリレンザ）の備蓄も国民分には足りませんのでする必要があります。マスクも今回売り切れが続出したので、十分な量の生産を行い備蓄をする必要があると思います。

「備えあれば憂いなし」になりたいですね。聖マルチン病院 整形外科 田賀谷健一

主な司教日程

- 7月5日(日) 結城了雪祭12:00 (阿南)
7日(火) 常任神学院委員会
9日(木) 宗教者平和懇話会14:00 (丸亀)
11日(土) 大阪教区巡礼団訪問
17日(金) エキュメニズムグループ来高 (善通寺)
19日(日) 高山右近祭13:30 (小豆島)
24日(金) 大阪管区司教会議
25日(土) 高松教区幼稚園研修会
8月5日(水) 平和行進 (広島)
9日(日) 平和を祈るミサ10:00 (桜町)
10日(月) ~11日(火) 大分教区幼稚園研修会

教区スケジュール

- 7月1日(水) ペトロ岐部と187福者の記念日
4日(土) 「パウロ年」閉年ミサ14:00 (玉造)
5日(日) 年間第14主日、結城了雪祭12:00 (阿南)
7日(火) 司祭評議会10:00
9日(木) 宗教者平和懇話会14:00 (丸亀)
12日(日) 年間第15主日
17日(金) 宣教司牧評議会役員会13:00
19日(日) 年間第16主日、高山右近祭13:30 (小豆島)
20日(月) 海の日
26日(日) 年間第17主日
30日(木) ~31日(金) カトリック四国会館大掃除
8月2日(日) 年間第18主日
5日(水) 平和行進 (広島)
6日(木) 主の変容 日本カトリック平和旬間 (6日~15日)
9日(日) 年間第19主日、平和を祈るミサ10:00 (桜町)
10日(月) ~16日(日) 教区事務局夏休み
12日(水) ~13日(木) 歌って踊って平和を語ろうin徳島
15日(土) 聖母被昇天祭「司教座献堂記念日」
16日(日) 年間第20主日
22日(土) ~23日(日) 第35回教会学校教師会in香川
30日(日) 年間第22主日

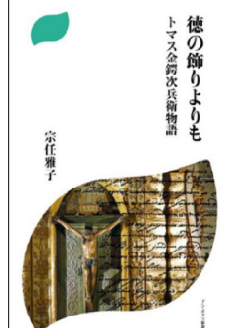
新刊書籍紹介

「愛の人 ド・ロ神父の生涯」コミック編



パリ外国宣教会から派遣されて長崎近郊の外海地区に教会と福祉活動の拠点を作り村人、と婦人たちの自立のために愛を惜しげもなく注いだ神父の物語。A5版 西岡由香 著 200ページ 長崎文献社刊 ¥1260

「徳の飾りよりも」トマス金罽次兵衛物語



徳は自分のためではなく、人に尽くしてこそ身に付く。188殉教者の一人、金罽次兵衛神父の波乱に満ちた生涯。宗任雅子 著 220ページ ドン・ボスコ社刊 ¥735